

富山県立大学 COC NEWS Vol. 6

地(知)の拠点
Center of Community



[CONTENTS]

- ピックアップ!
COC 全国シンポジウム
 - H28前期COC活動報告
 - H28研究費 採択一覧
 - COCOS
 - H28前期成果発表会／お知らせ
- 1面
2、3面
4、5面
6面
7面
8面

PICK UP! COC/COC+全国シンポジウム開催

富山県立大学 COC/COC+ 全国シンポジウム

地域活性化と大学の役割

地方創生に向けた学生・大学・地域のさらなる連携を求めて

本学は「工学」で地域をつなぐ「地域創生型大学」の構築に向けて取り組んでまいりました。豊田大学の学生を中心とする地域の企業、対話・協働を核とした活動の成果を生産するとして、COC/COC+の開催が富山の地域活性化と大学の役割について考え、相互の連携を強化する場といたします。

2016年9月26日(月) 13:00～17:50

富山国際会議場 2F
〒930-8684 富山県富山市大字町1

【I部：シンポジウム】 13:00～15:30	【II部：分科会】 15:00～17:30
1. 基調講演 基調講演者 廣島 和博 氏 【大学における地域連携・協働推進の実際 ～富山県産学連携推進センターの取組～】	1. 地域の魅力向上 ～観光業、宿泊業～の取組から課題～
2. 学生の専門発表	2. 持続可能な社会の実現 ～富山県産学連携推進センターの取組～
【ポスターセッション】 15:30～16:00	3. 高齢者福祉の充実
	●閉会 17:30～17:50
	●交流会 18:00～

地(知)の拠点

〒930-8684 富山県富山市大字町1
TEL: 0766-56-7800 伊勢 2553 FAX: 0766-56-1022
Eメール: coc@ccu-1.yamaguchi.ac.jp

9月26日、富山国際会議場にて「地域活性化と大学の役割」地方創生に向けた学生・大学・地域のさらなる連携を求めて」というテーマで本学主催のCOC/COC+全国シンポジウムを開催しました。全国20大学をはじめ、9自治体、16企業団体、及び一般の方々約200名にご参加いただきました。

基調講演では北九州市立大学地域創生学群長の眞鍋和博教授に「大学における地域連携・実践型教育の展開」というテーマでご講演いただき、学生が地域と継続的に関わっていくことの重要性をお話しいただきました。



た。続く学生による事例発表、ポスターセッションでは各地での様々な事例が紹介されました。「地域の魅力向上」、「持続可能な社会の実現」、「高齢者等福祉の充実」のテーマに分かれた分科会も開催し、活発な議論が行われました。交流会にも多くの方にご参加いただき、地域活性化と大学の役割を確認し合う貴重な機会となりました。【詳細記事2、3面】

PICK UP! 星空トロッコ〜天文部が星空ガイド〜



トロッコ電車が有名な黒部峡谷。秋には終点「樺平」で星空を楽しむイベント「星空トロッコ」が実施されており、今回、本学の天文部が黒部峡谷鉄道よりご依頼を受け、そのサポートを行いました。

まず、事前PR用の星空写真を撮影しました。それらの写真は、新聞広告や関西電力のSNSに用いられました。

星空トロッコ当日は、車内放送、現地での星空解説を担当しました。工夫を凝らした内容は「学生の手作り感があたたかい」と大変好評でした。天文部では今後も本取組の継続と、天文の知識や技能を生かした地域との新たな取組を模索していきます。



天文部が撮影した写真 (上段：新聞広告に採用された写真)

COC/COC+ 全国シンポジウム

基調講演

北九州市立大学 眞鍋和博教授から「大学における地域連携・実践型教育の展開～北九州地域活性化の担い手としての学生発見～」と題してご講演いただきました。

<要旨>

- 北九州市立大学では地域連携、実践型教育として地域創生学群・様々なボランティアやサービスを展開している地域共生教育センター(421Lab)や他大学と連携し、地域活動に取り組むための施設である北九州まなびとESDステーションを設置している。
- これまでは、地域に多くの課題があり、様々な運営が行われても担い手となる学生が少なかった。しかし学生が、運営の主体として活躍できてこそ地域創生の1つの形になるのではないだろうか。
- 学生は、大学のプログラムだから地域と関わっているという意識ではなく、住人として責任をもって持続的に関わることが大切である。このような意識を持つことや地域と関わることで、シビックプライドや自負心が醸成される。そして、シビックプライドの醸成ができてはじめて地元に着定する学生が増えるのではないか。



北九州市立大学 地域創生学群長
眞鍋 和博 教授

学生事例発表

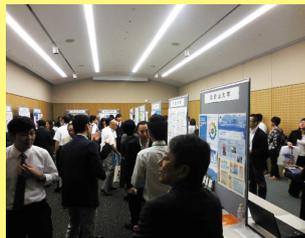


- 金沢工業大学<金澤月見光路の実施とそれにむけたオブジェの制作や地元企業・NPO 法人との連携>
- 高知県立大学<地域とともに行う防災活動の紹介>
- 滋賀県立大学<空き家を改修し、新たな価値を見だしまちづくりを行うとよさと快蔵プロジェクトの紹介>
- 芝浦工業大学<建築、都市、地域のデザインをテーマとした教育・研究・社会貢献の諸活動の紹介>
- 富山国際大学<学生の地域内での活動や地域外でのPR 活動などを通じた限界集落復興支援事業の紹介>
- 富山県立大学<大学のCOC 事業の継続を目的としたCOCOSの活動紹介>

ポスターセッション

★参加大学一覧★

鹿児島大学 / 金沢工業大学 / 高知大学 / 高知県立大学 / 滋賀県立大学 / 芝浦工業大学 / 信州大学 / 東北公益文科大学 / 徳島大学 / 富山大学 / 富山国際大学 / 福井大学 / 三重大学 / 和歌山大学 / 富山県立大学



分科会（パネルディスカッション）

地域の魅力向上



【コーディネーター】

岩本 健嗣（富山県立大学 情報システム工学科 准教授）

【パネリスト】

田中 幹夫氏（南砺市 市長）

木村 ともえ氏（(公財)とやま観光推進機構マーケティング部
部長 / (株) JTB 中部 交流文化部地域推進課 課長）

馬場 孝朗氏（滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科 3年）

地域の魅力向上をテーマに「観光振興」「定住振興」の観点からお話しいただきました。

【馬場氏】古民家改修を行っている「快蔵プロジェクト」について大学・地域の方の関わりを交え報告。【木村氏】観光の視点から地域の魅力を向上させるには、どのようにすればいいのかをDMOを絡め提案。県立大学と共同の取り組みについても紹介。

【田中氏】南砺市が観光と定住についての観点からどのような政策を行っているかをエコビレッジ構想、クリエイタープラザなどの例を挙げて紹介。

各々の発表の後「地域の魅力向上のために大学が果たすべき役割」や「2030年には地域の魅力はどのように地方創生の一助になっているか」をテーマに討論が重ねられました。「企業と学生が関わる場をたくさん大学がつくるべき。」など、大学が地域にどのように関わっていけばよいか、いろいろな意見が出ました。

持続可能な社会の実現



【コーディネーター】

中村 秀規（富山県立大学 環境工学科 講師）

【パネリスト】

高野 雅夫氏（名古屋大学 大学院環境学研究所 教授）

上坂 博享氏（富山国際大学 現代社会学部 教授）

萩原 和氏（滋賀県立大学 地域共生センター 准教授）

「環境・地域デザインの臨床現場における大学の役割」をテーマにお話しいただきました。

【上坂氏】八尾町桐谷地区（限界集落）において、再生可能エネルギーによる地域自立を目指した学生の取り組みを報告。地域の方の支援についても紹介。

【高野氏】コンサルティングファームを通じての地域への支援事例や民間ではない大学のコンサルティングならではの特徴を紹介。

【萩原氏】どのように地域志向を高めていくかを滋賀県立大学 COC 事業 / COC + 事業の取り組みの中から紹介。

「学生が自分たちの住んでいる地域に来て、注目してくれるだけでも刺激になり、活性化に繋がる。」「地域から大学への相談があった時に、相談を受け取って対応できる教員を育てることが大事。」「地域の方たちと学生がきちんとコミュニケーションをとるためには、教員が事前に環境を整えておくことが必要。」などの意見が出ました。

高齢者等福祉の充実



【コーディネーター】

村上 満氏（富山国際大学 子ども育成学部 教授）

【パネリスト】

中林 美奈子氏（富山大学 医学部 准教授）

相山 馨氏（富山国際大学 子ども育成学部 准教授）

鳥山 朋二（富山県立大学 情報システム工学科 教授）

「富山発ハードとハートで支えるもの（モノ・者）づくり」と題し、富山からどのように発信していくかをお話しいただきました。

【鳥山氏】高齢者の転倒問題のない街づくりを目指した取り組みを紹介。新型歩行器を使った実験・分析結果の報告。

【中林氏】富山大学歩行圏コミュニティ研究会の取り組みの中で、歩行補助車「まちなかカート」の開発や「産学官民」の協働についてなどの事例報告。

【相山氏】介護者支援に向けて、どのような地域包括ケアシステムを構築していくべきかを提案。

今後の展望として、地域の問題を工学的アプローチで解決していきたい（鳥山氏）、今の活動を富山型リビング・ラボ（住民と共生するイノベーション）に発展させていく（中林氏）、介護者の負担を軽減し、介護者自身が自分らしく生きるための施策を図っていく（相山氏）、との話が出されました。

H28前期COC活動報告

kore isya 高齢者の『閉じこもり』を考える

上村トピックゼミ

高齢者の寝たきりを招く要因として問題となっている「閉じこもり」をテーマに、地域における実態・意識調査を行いました。

高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターを訪問した後、①地域の高齢者が集うふれあいサロン、②民生委員、③自治体（射水市地域福祉課）、④メンタルカウンセラー、⑤大学生の5つの調査対象別にチームに分かれて、閉じこもりの問題やそれを取り巻く環境について様々な視点から調査しました。

アンケート調査の結果、自立高齢者の中にも4人に1人の割合で閉じこもり予備群が存在することや、若者と高齢者で閉じこもりの認知度に決定的な差があることが明らかとなり、地域のネットワークづくりや予防対策についてアイデアを出し合いました。



kodomo 子どものモノづくり教育

支援を目指した紙のからくり玩具の考案

藤井プレゼンテーション演習



子どもたちにモノづくり体験の場を提供するためには、題材の準備や製作教室開催時のノウハウを知ることが重要です。今回は富山出身で楽しい作品をデザインされているペーパークラフター中村開己氏を2回本学へお招きし、ワークショップを行いました。

6月2日には、中村氏考案の紙のからくり「カミカラ」についてお話を聞き、その後カミカラの基本構造を実際に作って動きを確認しました。6月23日には、学生が考えてきたデザインを元に中村氏のアドバイスを受けつつ、カバモチーフの試作品を作りました。学生達は当初案から実際に動作するからくり玩具にすることに大変苦労していましたが、COC成果発表会までに試作品を数回見直し、製作教室に使用可能な型紙を完成させました。

san gyo 酵母を知る

西田プレゼンテーション演習

酵母は発酵産業において広く用いられている微生物です。酵母は菌類に属する真核細胞生物で、出芽で増殖するものが多いです。サツカロミケス属の酵母はビール、ワイン、清酒、パンなどに広く用いられていますが、それぞれにおいて、適しているものとそうでないものがあります。

本演習では、自然界より、実際に酵母を単離・培養する簡単な実験を行いました。さらに、産業利用の観点より、どのように酵母は選ばれ、利用されているかについて知るため、ワイン酵母は山藤がどう園、清酒酵母は栴田酒造、パン酵母はBaku Houseを訪れて、見学して意見を聞きました。見学後には、すべての学生が、何を知ったかについて、詳細にレポートを書いて、COC事業を通して、見学させていただいた会社へ提出しました。



kore isya 福祉用具の提案

大島プレゼンテーション演習



福祉用具について調査・研究し、発表するというプレゼン演習科目において、地域の福祉施設や行政機関を訪問し、高齢者福祉の実態に触れさせていただきました。

職員や入所者の皆さんが工学部の若い学生に期待を込めて熱心に語る姿が学生たちの心に火を点けました。このような触れ合いを通して提案された福祉用具は、県の福祉用具アイデアコンクールにおいて入賞を果たし、自分たちのアイデアが社会に通用することを知り、大きな自信となりました。また、アイデアの具現化にあたっては、地域の技術者にアドバイスをいただけたことも大きな励みとなりました。

さらに入所者の笑顔をみたいという思いで、福祉用具の製作が続けていきます。

anzen

地すべり災害を防ぐために 水辺の楽校での体験

古谷トピックゼミ

富山県は、大きな災害がないと認識されていますが、実は地勢的に土砂災害の危険性が高い地域のひとつです。今回トピックゼミの一環として国土交通省が全国的に展開している「水辺の楽校プロジェクト」に採択された小矢部市・後谷地すべり地にて、地すべり対策工の見学、地すべり観測の体験、そして地すべり対策後の土地利用状況の見学を行いました。現地では、NPO法人富山県砂防ボランティア協会の皆様より懇切丁寧な事業目的と機器類の使用方法のご説明とご指導を賜りました。本ゼミでは、各自土砂災害に関して文献調査等をし、まとめた上で発表をする流れで進めてきましたが今回の見学を通じて地すべり災害を防止に関する認識を深めることができました。



miryo ku

地域の様々な課題を考える

中田・岩本トピックゼミ

2ゼミ18名合同で、4つのグループに分かれ、別々の地域課題へ取り組みました。

呉羽自然体験自然教育における 視線検出システムの開発



呉羽丘陵にて自然体験学習を行っているNPO「きんたろう倶楽部」より、体験学習時に参加者がどこに注目するか(視線がどこにあつまるのか)を計測するツールを考案してほしいとの依頼を受け、取り組みました。カメラを用いた画像処理システムを開発すべく、ヒアリング、現地調査を経て、合宿形態で集中的にプログラミング開発を行うハッカソンを実施しました。依頼者と協働しながら試作を重ねました。

観光における小杉地区と新湊地区の連携を考える

射水市新湊地域と小杉駅周辺の観光資源との接続性の低さを解決したいと射水市から依頼を受け取り組みました。市の担当者へのヒアリングや現地踏査、内閣府提供のウェブ上の地域経済分析システムRESAS(リーサス)での観光動態調査を経て、新湊の観光地「きときと市場」にて観光客に直接アンケート調査を行いました。その結果は射水市へ報告し、本学シンポジウムでも発表しました。



内川の地域課題について考える

「日本のベニス」とも称される独特の景観と風情を持つ射水市新湊地区内川は、今、映画の舞台にもなり観光地として脚光を浴びつつありますが、一方で人口減少や空き家問題などが顕在化しています。本グループでは、内川に関わる様々な方からヒアリングを行い、内川の観光や暮らしについて調査し、ゼミ後半には地域住民の小さな声も拾うためにはどうしたらよいかというアンケート実施案について検討しました。



南砺市クリエイタープラザを核とした桜ヶ池エリアの活性化を考える

南砺市の地域の新しい産業創出・文化発信の施設として「南砺市クリエイタープラザ(桜クリエ)」というクリエイター向けのサテライトオフィス兼コワーキングスペースが建設されました。本施設の認知度をもっと上げるにはどうしたらよいかというテーマで取り組みました。関係者へのインタビュー、フィールドワークを通じて、イベントを企画するアイデアをまとめ、ゼミ後半に関係者へ提案しました。



平成28年度 地域志向教育研究費 採択一覧

区分	テーマ	代表教員	地域
地域志向教育プログラム	射水市・内川の橋-その魅力を探る-	原口志津子 教授	射水市
	工学系の学生が考えた地元小学生・中学生の国際交流学习のアシスト	清水義彦 准教授	射水市
	地域小学生のための英語教室 - グローバル人材育成につながる英語教育支援 -	山崎大介 准教授	射水市
	視覚障碍児童・生徒のための科学イベントの実施	高木昇 教授	富山視覚総合支援学校
	中小企業の魅力発掘と製造現場における問題解決の提案 (製造業で働く女性の実像を調べる)	岩井学 准教授	富山市・高岡市
	学生のみによる「プラネタリウム工作教室」の運営	松本公久 講師	富山県
	学童保育の場で使用する教育コンテンツの作成と教育の実施の支援	鳥山朋二 教授	射水市・富山市・高岡市
	射水市小学校および児童館での理科実験	中島範行 教授	射水市
	持続可能な地域づくりの診断から処方まで：環境モデル都市富山を事例として	中村秀規 講師	富山市
地域志向研究	トピックゼミでの地域協働授業の実施をサポートするためのマニュアル作成	濱貴子 講師	射水市・南砺市
	製作教室用教材（からくり模型）の研究	神谷和秀 教授	富山市
	地方の若年層未定着の問題解決に繋がる自治体行事の低コスト化モデル構築	鳥山朋二 教授	射水市
	ビックデータを活用した新湊・小杉間の観光交通のニーズ調査	岩本健嗣 准教授	射水市
	小矢部市の観光促進を目指した観光コンテンツ制作および情報発信ツールの開発	榊原一紀 准教授	小矢部市
	自然教育における児童に有効な教育方法の確立を目的とした視線検出システムの開発	中田崇行 准教授	その他 (NPO 法人)
	センサ付新型歩行器の開発とそれを通じた高齢者福祉理解	浦島智 講師	射水市
	大型裸眼立体ディスプレイで見る、富山の美しい風景収集プロジェクト	西原功 助教	射水市
	香り華やかな日本酒製造のための香り評価システムの構築	中島範行 教授	黒部市
	下水道の機能向上による富山の水環境保全に関する調査研究	楠井隆史 教授	射水市・高岡市
	小矢部市の中山間地域における廃校を利用した大気環境観測 - 富山県山間部での環境実態評価および安全・安心のための情報提供 -	渡辺幸一 教授	小矢部市
	小矢部園芸高校における BDF 大量変換および授業「農業と環境」実態の支援	梶俊郎 准教授	小矢部市
	時間毎エネルギー消費量の調査と最適熱供給システムの設計に関する研究	立花潤三 講師	黒部市
地域の景観の変遷過程の分析と保全に向けた取り組み	星川圭介 講師	射水市・高岡市	
学生自主プロジェクト	テーマ	学生団体（代表者）	地域
	Plant Project -Sunflower Life Cycle-	ひまわりサークル 生物工学科2年 中畑未来	射水市
	TPUMarker: 富山県立大学生向けニュースサイト×富山県観光情報	Core Creative Manager(CCM) 情報システム工学専攻1年 伊達伸之輔	富山県全域
	ダ・ヴィンチ祭参加者向けの広報アプリケーションの開発	チーム ASAI 情報システム工学専攻1年 高松将也	射水市
	「ふく福柿」の収穫作業の効率化、収穫者不足の改善、ふく福柿の6次産業化への研究、知名度の向上	水土里保全研究会 他 生物工学科3年 白谷周作	砺波市
	星空トロッコ PR 用の星空写真の撮影	天文部 情報システム工学科3年 中村龍一郎	黒部市
	第2回いみず祭り	地域協働研究会 COCOS 情報システム工学科3年 榊原拓実、竹内彰裕	射水市
	小矢部市の観光促進を目指した観光コンテンツ制作及び情報発信ツールの開発	榊原ゼミ 情報システム工学科3年 安久昌和	小矢部市
山間部における自然体験補助アプリの開発と必要とされるデータの収集	イメージトレイニー 情報システム工学科3年 牛越一樹	射水市	

地域協働研究会COCOS

いみず祭り

いみず祭りは射水市の合併10周年を機に、射水青年会議所が主体となつて去年から開催された祭りです。伝統の「新湊のじた踊り」を現代風にアレンジした「射水のじた総踊り」を核に、新しい文化の創造、伝統芸能の継承、地域資源の活用など様々な視点から、射水市の魅力の再発見や再構築をすることを目的としています。

COCOSは昨年と同じくイベントの一部を企画の段階から任せていただき、今回は流しそうめんとエンドロールをイベントとして実施しました。またイベントの企画だけでなく、いみず祭り実行委員会としていみず祭りの運営活動を行いました。

エンドロール

エンドロールは、「みんなで祭りを作り上げたこと」を実感してもらいたいという思い

で動画の制作をしました。

いみず祭り当日の動画や写真を使うため、前準備としてあらかじめエンドロールの流れを作っておき、当日に分担して祭りの様子を撮影し、その場で写真を組み込んで4分程の動画を完成させました。完成したものは祭りの最後の企画として会場のスクリーンに映し、終了後には大きな拍手をいただきました。



流しそうめん



流しそうめんは、「食を通じていみずを一つに」をコンセプトに企画し、そうめんを流す竹だけでなく、竹を使って「のじた」の文字を作る竹看板の製作もしました。射水青年会議所の方から竹を譲っていただき、竹の切りだしから始め、3日間かけて加工を施して完成させました。当日は午後から一時間ほど開催しました。何十組もの親子が来てくださり、大好評でした。

ブロック大会



です。44回目となる今年は、射水市が舞台となり、「共に語ろう！とやまに未来のために」という主題の下、9月3日に富山県立大学内で開催されました。

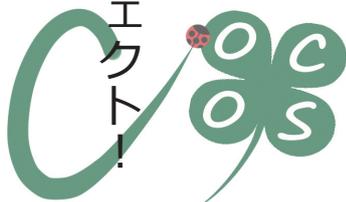
ブロック大会の企画の中にある富山の魅力発見講座ではCOCOSが司会を務め、5人の講師が富山の魅力を語るほかに、COCOSを含めた富山県内の6つの学生団体がそれぞれの団体の特徴や活動内容を説明しました。また、後半は参加者全員で富山の魅力や、より発展させる方法などについて話し合いました。

後期活動予定

移住定住促進

入善PR動画作成プロジェクト!

協働先◆入善町・北日本新聞



平成 28 年度前期 地域協働授業成果発表会

7月28日(木)29日(金)、本学大講義室にて本年度前期の地域協働授業成果発表会を行いました。学内外から延べ270名の方にお集まりいただき、ゼミや学生団体10組がそれぞれの成果を報告しました。

<プログラム>【1日目(7月28日)】①「中小企業の魅力発掘(製造業で働く女性の実像を調べる)」プレゼンテーション演習(岩井学准教授)②「地元食材を使った下宿生のレシピ」教養ゼミⅠ(平野嘉孝准教授)③「子供たちのモノづくり教育支援を目指した紙のからくり玩具の考案」プレゼンテーション演習(藤井正准教授)④「TA(Teaching Assistant)としての取り組み紹介」地域協働研究会COCOS⑤「子供たちにプログラミングへの興味を持たせる試み」プレゼンテーション演習(鳥山朋二教授、唐山英明教授、浦島智講師)**【2日目(7月29日)】**①「射水市のニッチな観光資源の掘り起こし」トピックゼミⅠ(小林香講師)②「地域企業経営者より科学技術と社会、技術者としてのキャリア形成に学ぶ」トピックゼミⅠ(濱貴子講師)③「内川・南砺・小杉・呉羽におけるグループ別取組み～TAを取り入れたゼミ運営～」トピックゼミⅠ(中田崇行准教授、岩本健嗣准教授)④「富山と農業と私」トピックゼミⅠ(古澤之裕講師)⑤「高齢者の『閉じこもり』を考える～地域における実態・意識調査～」トピックゼミⅠ(上村一貴講師)



お知らせ ～ information ～



地域協働授業の教員向け 運営マニュアル

公立大学法人富山県立大学
COC推進別グループ「地域の魅力向上」マニュアル作成チーム

地域協働授業マニュアル(教員向け)完成

本学では1年次から3年次までの必修科目(少人数制ゼミ)に「地域協働授業」を導入しています。担当教員個別の工夫・努力により様々な取り組みが展開されていますが、一方で通常の授業よりも教員負担が大きいという実情があります。この度、有志教員グループがそのような負担軽減と本授業への新たな教員参画を促す目的で、地域協働授業の教員向け運営マニュアルを作成しました。授業の組み立て方や心構え、グループワークの手法など、4つの授業実例を交えて紹介しています。冊子として本学教員に配布されますが、本学COCホームページでも紹介しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

学内の
皆さまへ

「図書の貸し出しについて」

地域協働支援室では図書の貸し出しも行っており、最近では本を大幅に増やして様々な種類の本があります。

特に「アクティブラーニング」「ワークショップ」「ファシリテーション」や「地域」に関する本を多数揃えておりますので、ゼミでCOCの授業を行うときには非常に役に立つと思います。他にも「デザイン」や「プレゼンテーション」に関するものもありますので、成果発表会などに向けてご活用いただけたらと思います。

学生だけではなく教職員にも貸し出ししているので、皆さん気軽にお立ち寄りください。



地域と県大。「地」と「知」でつながろう!

スイッチオン!

富山県立大学 COC事業 TPU Switch On! Project

公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室

<http://www.pu-toyama.ac.jp/coc/>

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

(環境工学科棟 3階 I-333室)

TEL:0766-56-7500(内線255) FAX:0766-56-8022

E-mail:coc1@pu-toyama.ac.jp

編集:地域協働研究会COCOS 発行:平成29年3月

